

古事記を読む会 31号 (2017, 7, 2)



涼しい陽気に喜んでいましたら、此の所、梅雨本番で強い雨足。梅雨本番です。あちこちで、被害がないようにと思います。

前回は、服部先生からタチバナの自生地：伊豆の戸田からの情報を伝えていただきました。まず、美しい写真で橘の清楚な白花に圧倒されました。味ではなく香りを讃える詩が多いとのことで、橘の香水をお返し頂き、それぞれ手の平に橘の香を塗り込みました。これが人々を惹きつけた橘の香なのかと思いながら、先生のお話を伺ったのですが、前回の復習もお願いしました。

常世の国に行ったのはだれか？田道間守は帰ってきが、どこへ行って来たのか？橘はティクトスタチバナの学名は、日本にしかない。持って来たと言う話とは違う。『魏志倭人伝』には、日本の人はタチバナの食べ方を知らないと書いてあるという。日本にあるタチバナを同じだと思った。最もよく似ている。もって来たとすれば高麗タチバナか。似たもので琉球タチバナも考えられる。少彦名が来て帰るのは、粟島（米子）で日本海から帰っている。伊勢もヒタヒタと常世の国から浪が来るという。牧野富太郎氏は食べる事から言うと、倭寇が伝えたコミカンかとも言う。しかし、万葉集には、うまいと書いてない。香りがよいことが詠まれている。タチバナは、天皇家や神社に植栽された。中国の屈原の詩の影響があったという。花の開く美しさを乙女のように思い、常緑の様子を愛でた。戸田には、日本原産のタチバナが自生している。その花盛りを見学された。樹勢が衰えると一面につぼみを付けるそう。ともかく輝く白が美しい。

6月4日の追加資料も配布された。田道間花（たじまばな）が「たちばな」となり、橘と書くようになったとの説もあるという。

高原代表から、先日開催の全国植樹祭に参加されたこと。天皇陛下が御植えになった植物は、無花粉の立山杉、コシノヒガン、ヒメコマツ。皇后陛下は、コシノフユザクラ、キタコブシ、ハウノキ。そして種まきされたのはエドヒガン、タブノキ、ゴヨウマツ。皇后陛下は、ヤマザクラ、マルバマンサクなどであった。近い所で御姿を拝見された様子で、聞いているだけでありがたかった。近藤さんから、田道間守・天の日矛について、どんな人が興味があり、古事記には書かれ、日本書記には書かれていないのはなぜか？崇神→垂仁が三輪王朝で、出雲の神々を祭っている。その後、応神期から河内王朝となり、言ってみれば外来王朝なので、あえて伏せたのか？と、服部提案の関連意見が出た。

イズミさんから、天皇の年齢が大きな数になっていることについて、収穫高であること。天皇がどれだけの地域を支配しているかを表している。年は稔であり、1年の取れ高（江戸期の石高のようなもの）である。

今後の予定

9月3日 藤田先生の第2回目 「久米歌と三輪の大物主」

10月1日、 11月5日、 12月3日、